

柴田町新図書館基本構想 (素案)

令和5年12月
柴 田 町

はじめに

柴田町図書館は、平成22年に暫定図書館として開設しましたが、十分な蔵書冊数や閲覧スペースを確保することが難しく、利用者の方々から様々なご意見をいただいていたところです。一方、デジタル化やグローバル化、少子・高齢化など、社会状況が変化するなかで、図書館は、~~住~~住民の多様なニーズへの対応や地域の課題解決を支援するための図書資料の充実や ICT 化への対応など、~~新~~新たな図書館サービスを提供することが求められています。

柴田町~~とし~~では、平成27年から~~図書館機能の強化と~~新図書館建設に向けた調査・研究を始め、平成31年には新たな交流・連携の拠点となる新図書館建設を最重要プロジェクトとして位置づけて、調査・研究を継続してまいりました。~~また、さらに、令和4年度において、柴田町都市計画マスタープラン、立地適正化計画に基づく「都市再生整備計画（柴田町都市拠点（船岡）地区）」では、新図書館の建設を核としたエリア一帯の再整備事業が国に認められ~~またたところです。

新図書館の建設に向けては、公募による住民をはじめ、学識経験者や図書館関係者等をメンバーとする新図書館建設検討委員会委員を設置し、町民アンケート調査やプレイスデザインワークショップ、住民懇談会に参加いただいた方々からのご意見を踏まえ、基本構想の検討を進め、今回、「柴田町新図書館基本構想」として策定したところです。

「柴田町新図書館基本構想」では、基本理念を「本と出会い、人をつなぎ、地域の未来を拓く図書館」と定めています。新たな図書館は、多くの町民からのご要望があった図書館の基本的なサービスの充実や幅広い世代が利用しやすく、心安らぐ居心地の良い場、自由に人が集まり、交流し、新たな賑わいを創出する場として、魅力的な施設づくりを目指すこととしています。今後、「柴田町新図書館基本構想」の基本理念に基づき、図書館の規模や施設、さらに具体的な図書館サービスの内容を検討し、図書館をご利用いただく皆様の期待に応えられる新図書館を整備してまいります。

結びに、柴田町新図書館基本構想の策定にあたり、ご尽力くださいました「柴田町新図書館建設検討委員会」の委員の皆さま、並びに町民アンケート調査にご協力いただいた皆さま、プレイスデザインワークショップに参加いただいた皆さま、パブリックコメントにご意見をお寄せいただいた多くの町民の皆さまに、心から御礼申し上げます。

柴田町長 滝口 茂

目次

第1章 計画策定の趣旨	1
1 計画策定の趣旨と背景	1
2 計画の位置付け	2
3 基本構想の策定体制	3
第2章 柴田町図書館の現状と課題	4
1 柴田町の概況	4
2 柴田町図書館の現状	7
3 アンケート調査からみる意向	11
4 柴田町図書館の課題と今後の方向性	16
第3章 基本理念・基本方針	19
1 基本理念	19
2 基本方針	20
第4章 新図書館の建設予定地、規模、空間構成等について	21
1 新図書館建設予定地について	21
2 新図書館建設に向けた基本コンセプトについて	22
3 新図書館の規模について	23
4 新図書館の空間構成について	24
5 新図書館の機能等について	24
6 新図書館建設スケジュールについて	25
付属資料	26
1 新図書館建設に向けた検討の経緯	26

第1章 計画策定の趣旨

I 計画策定の趣旨と背景

柴田町図書館は、平成22(2010)年に暫定図書館として、既存の施設であるしばたの郷土館内の「ふるさと文化伝承館」に開設しました。また、槻木生涯学習センター内に槻木分室があります。図書館では、これまで、「未来の柴田を構築する情報拠点となる図書館」を基本理念として、住民の生活文化・教養の向上や生涯学習を支えながら、子どもの生きる力を育むとともに、住民の情報・文化学習活動拠点として、住民の誇りとなる図書館を目指して、取り組みを進めてきました。

しかしながら、現図書館においては、図書館自体の収容可能冊数が少ないことや十分な閲覧スペースが確保できないこと等、ハード面~~での~~において、解消できない課題を抱えています。さらに、柴田町図書館のある「ふるさと文化伝承館」は建設から30年以上が経過し、施設自体の老朽化が進んでいることや、バリアフリー等の対応も十分とはいえない状態にあるため、早急に図書館を新築する必要性が高まっていました。

そこで、現在柴田町図書館を設置しているしばたの郷土館~~や~~と船岡城址公園~~エリアを~~が一体化~~した~~となった新たなパブリックスペース~~として~~を整備し、まち中に交流や賑わいを~~創出する~~つくり出す拠点~~づくりを施設として~~新図書館を位置づけ、令和5年度に策定した都市再生整備計画~~(柴田町都市拠点(船岡)地区)~~に盛り込み~~、~~んだところです。~~その実現に向け今回~~において都市構造再編集集中支援事業の活用が認められたことから、新図書館建設に向け~~て~~基本構想を策定することにな~~り~~ましたものです。

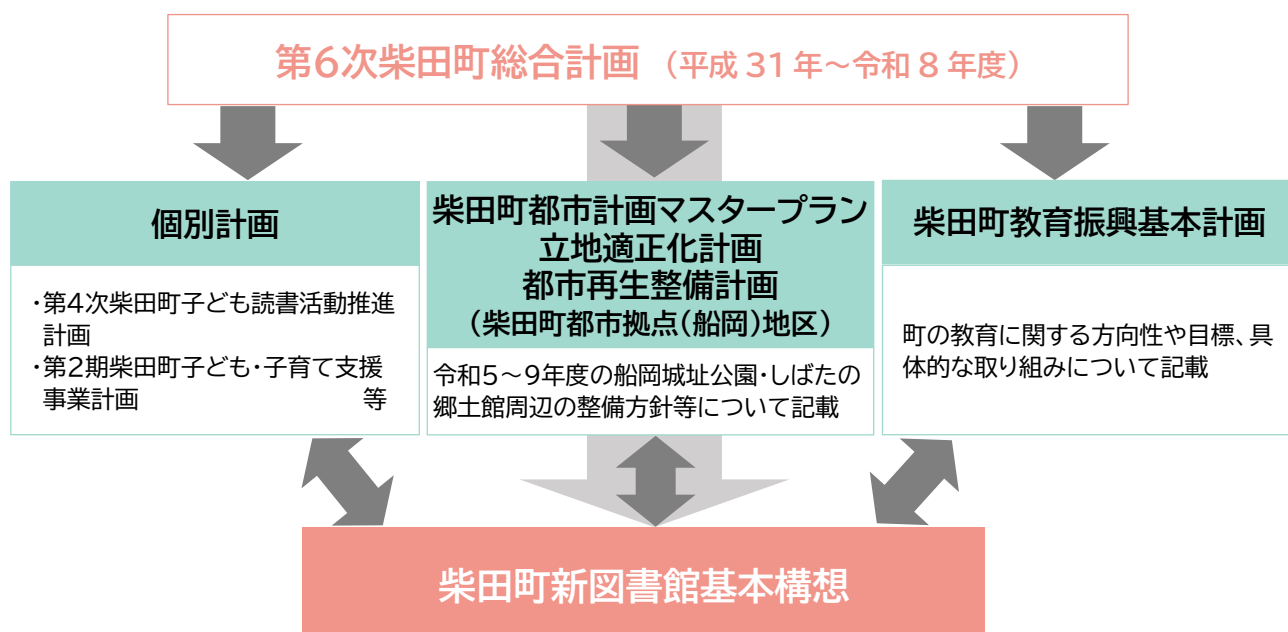
~~なお~~今後は、プロポーザル方式で決定する優先交渉権者から提案いただく、図書館建設に係るコンセプトやデザイン、ノウハウ、また、住民説明会やワークショップにおいて寄せられたアイデアや要望を盛り込んだ基本計画や基本設計、さらに具体的な実施設計を行い、令和7年度に工事に着手する予定です。

新図書館については、図書館サービスの基本となる知の拠点としての役割だけでなく、図書館に求められる多様なニーズに応じ、住民等との交流や体験~~や~~、学習活動、まちづくり活動の場としても利用される、新たなパブリックスペースとして機能することが期待されています。

今回、令和9年度に完成を~~予定している~~目指した新図書館の建設に向け、新図書館の課題と方向性を整理して、基本理念及びそれを実現するための基本方針を設定し、新図書館の建設イメージとなる「柴田町新図書館基本構想」を策定~~しました~~ものです。

2 計画の位置付け

この計画は、本町のまちづくりの基本となる「柴田町総合計画」を上位計画として、「柴田町教育振興基本計画」、「都市再生整備計画」などの関連する計画との整合を図ります。

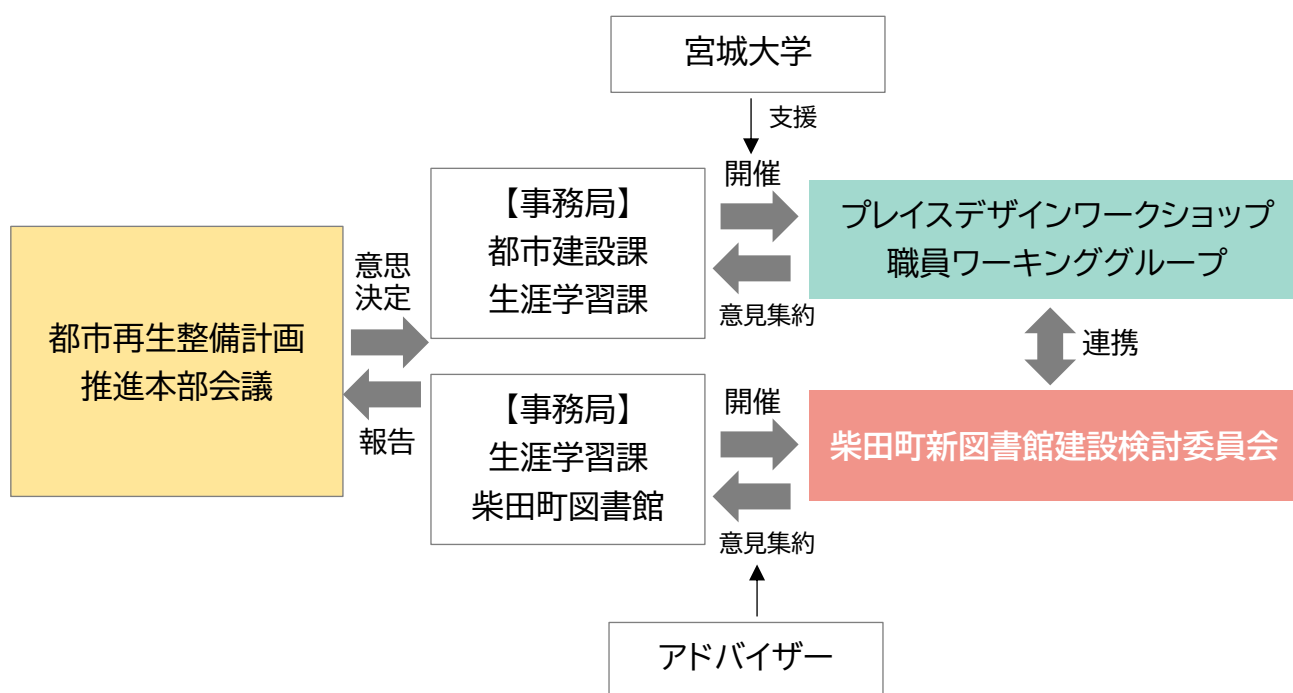


各計画における図書館に関する項目	
第6次柴田町総合計画後期基本計画	(抜粋)
I 歩いて楽しい街中賑わい創出プロジェクト	
(1) 賑わい交流拠点等の整備	
○また、新図書館の建設や、しばたの郷土館、船岡城址公園の再整備を一体的に行い、新たなシンボルとなる賑わい交流ゾーンの形成を目指します。	
都市再生整備計画(柴田町都市拠点(船岡)地区)	(抜粋)
【町の新たなシンボルとなる自然・歴史・文化が詰まった賑わい・交流拠点ゾーンの整備】	
(1) 都市の再生整備を図るリーディングプロジェクトとして、知の拠点である新図書館建設を中核として、歴史や文化の拠点であるしばたの郷土館や桜で有名な観光拠点である自然豊かな船岡城址公園が一体化した、高質な道路や歩行空間を備えたパブリックスペースを整備する。	

3 基本構想の策定体制

基本構想の策定にあたっては、~~専門性のある人材~~や図書館に詳しい学識経験者や図書館・教育・まちづくり等各分野の関係者のほか、町民の多様な~~視点や~~思いや意見を反映させるための、公募委員等によって構成された「柴田町新図書館建設検討委員会」を組織し、検討を行うとともに、宮城大学やアドバイザー等からも意見を頂きました。

また、より住民ニーズを反映した計画とするために、各種意識調査やワークショップ等を実施し、住民意向の把握に努めています。



第2章 柴田町図書館の現状と課題

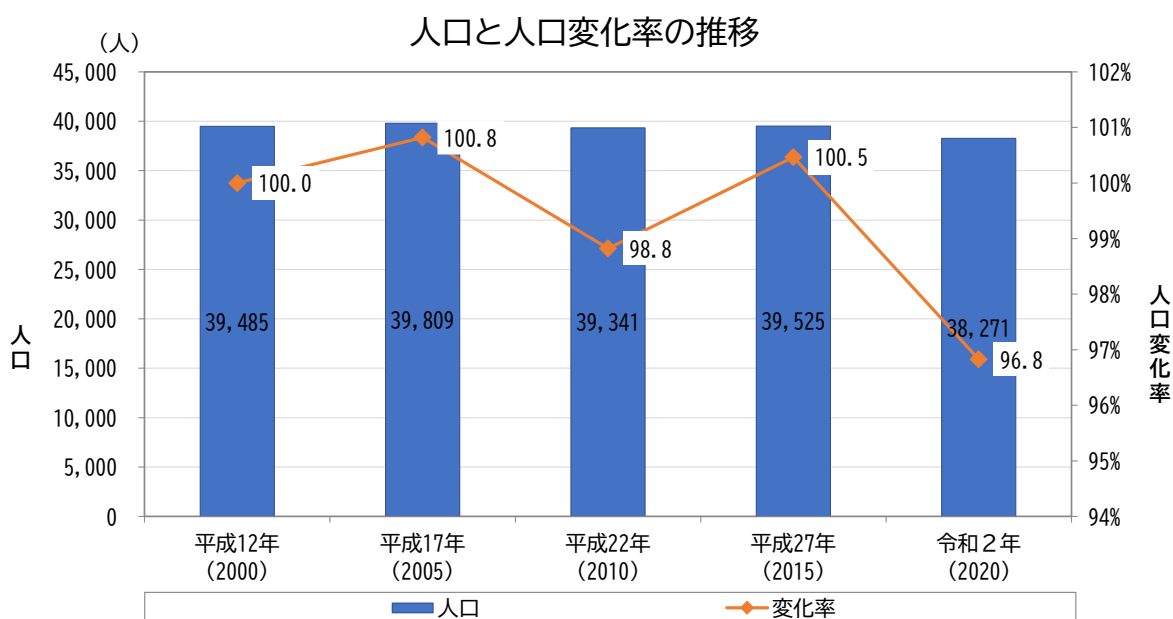
I 柴田町の概況

(1) 人口

① 総人口

柴田町の総人口は 39,500 人前後で増減しながら推移していましたが、令和2年の総人口は 38,271 人となり、過去 20 年間で最も少ない人数となっています。

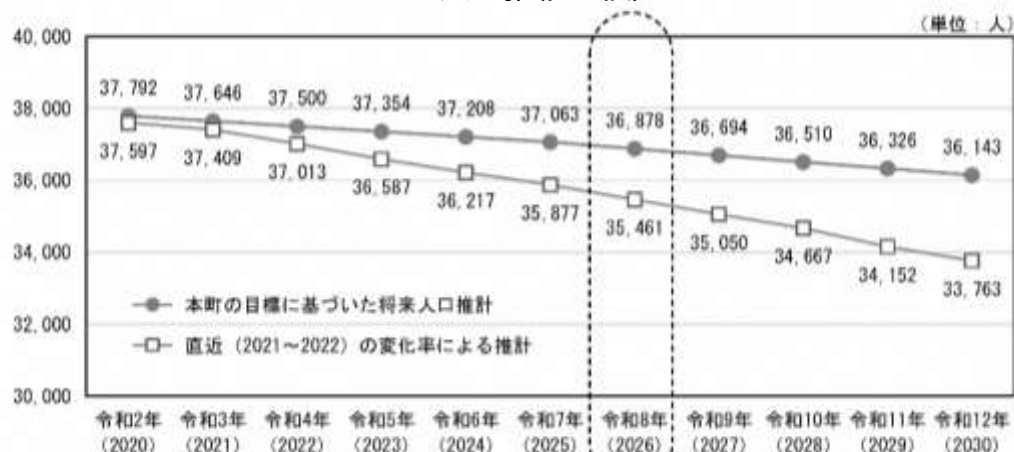
5年前の平成 27 年の人口に対する変化率は 96.8%となっています。



※人口変化率は各年の5年前の人口に対する変化率
(国勢調査)

また、第 6 次柴田町総合計画後期基本計画に示されている、令和3～4年の推移状況をもとに行った人口推計では、今後も人口減少が続くと見込まれています。

人口推移の検証



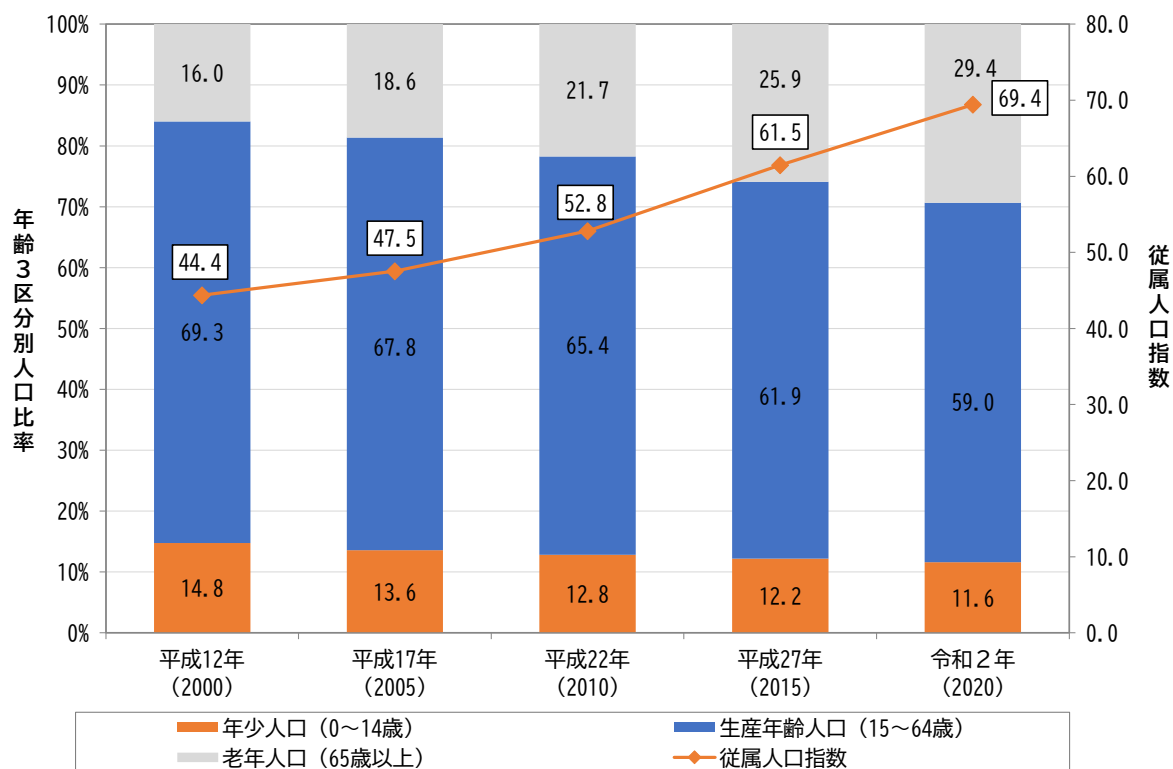
(第 6 次柴田町総合計画後期基本計画から抜粋)

②年齢3区分別人口

年齢3区分別人口の推移をみると、65歳以上の老年人口割合が平成12年の16.0%から令和2年には29.4%となり、20年間で13.4ポイント増加しています。一方、0～14歳の年少人口割合は14.8%から11.6%と3.2ポイント減少し、少子高齢化が進行していることがわかります。

従属人口指数（働き手である生産年齢人口100人が年少人口及び老年人口を何人支えているかを示す比率）は、平成12年の44.4から増加傾向で推移し、令和2年には69.4まで増加しています。

年齢3区分別人口と従属人口指数の推移



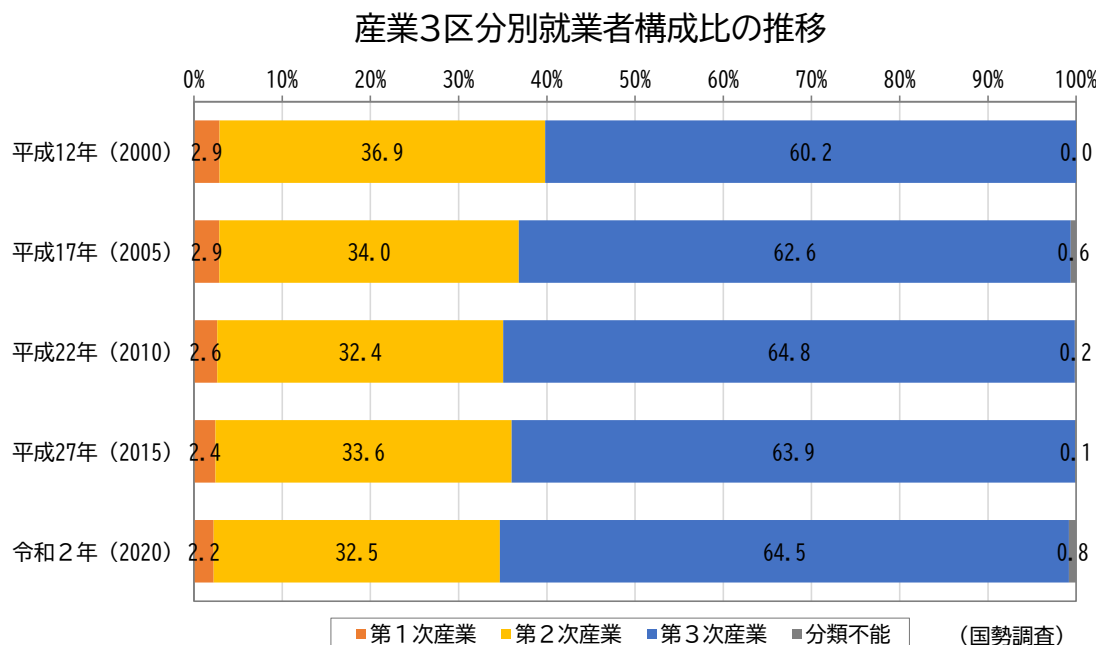
(国勢調査)

	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)
年少人口(0～14歳)	5,830	5,408	5,000	4,803	4,358
生産年齢人口(15～64歳)	27,349	26,984	25,535	24,410	22,147
老年人口(65歳以上)	6,306	7,417	8,482	10,201	11,018
	39,485	39,809	39,017	39,414	37,523

(2) 就業状況

産業3区分別の就業者総数は平成12年をピークに平成22年までは減少傾向で推移していましたが、平成27年には増加に転じ、令和2年には18,135人となっています。

産業3分類別就業者構成比の推移をみると、20年前と比較して第1次・第2次産業がやや減少しているのに対し、第3次産業は4.3ポイント増加しています。



(人)

	総数	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能
平成12年 (2000)	19,299	558	7,124	11,616	1
平成17年 (2005)	18,567	533	6,304	11,614	116
平成22年 (2010)	17,310	454	5,615	11,214	27
平成27年 (2015)	17,946	435	6,028	11,462	21
令和2年 (2020)	18,135	405	5,885	11,697	148

2 柴田町図書館の現状

(1) 概要

現図書館は平成 22(2010)年に暫定図書館として、既存施設であるしばたの郷土館「ふるさと文化伝承館」内に開設しました。平成28(2016)年には、槻木生涯学習センター内に槻木分室が開館しました。また、各地区の生涯学習センターや公民館を経由した貸出を行うなど、地域に根差したサービスを行っています。

【柴田町図書館】

項目		内容	
開館年		平成 22(2010)年 5 月	
延床面積(図書館占有部分)	開架	一般図書	171.14 m ²
		児童図書	64.00 m ²
	閉架	17.00 m ²	
	閲覧席	38.57 m ²	
施設概要	図書館	一般開架、児童コーナー、閲覧席、事務室、バックヤード、書庫	
	駐車場	30 台	
職員数	正規職員	5 名	
	任期付職員	3 名	
	会計年度任用職員	12 名(図書館勤務 3 名、学校図書館派遣 9 名)	

(令和4年度柴田町図書館要覧より)

(2) 開館日・開館時間

柴田町図書館の開館日・時間は、平日は午前 10 時から午後 7 時まで、土日祝日は午前 10 時から午後 5 時までです。槻木分室は、火曜日から土曜日までの午前 10 時から午後5時までです。

【柴田町図書館】

項目		内容
開館時間	平日	10 時～19 時
	土・日・祝日	10 時～17 時
休館日		月曜日(祝日の場合はその翌日)、第4木曜日(館内整理日)、年末年始、蔵書点検にともなう特別整理期間

【槻木分室】

項目	内容
開館時間	10 時～17 時
休館日	日曜日、月曜日、祝日、第4木曜日(館内整理日)、年末年始、蔵書点検にともなう特別整理期間

(3) サービス内容

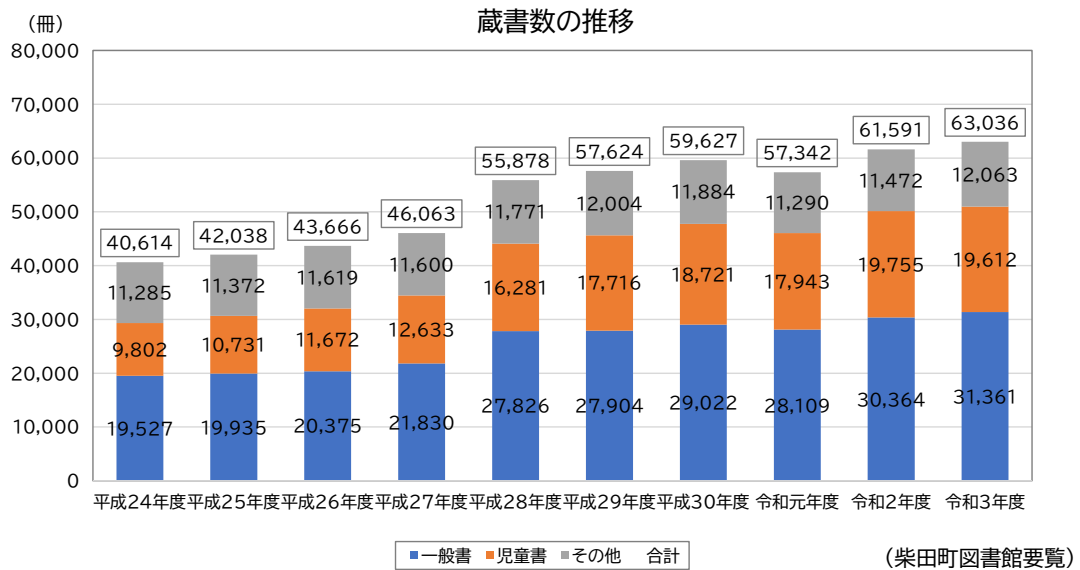
貸出冊数は1人当たり 10 冊までで、貸出期間は2週間です。カウンターサービスのほか、月ごとの「テーマ展示」や広報紙の発行を行うなど、利用者と本を結びつけるためのさまざまな工夫を取り入れています。また、各種事業を通して町民の読書活動の推進を図っています。

サービス・事業	概要
利用者サービス	・カウンターサービス（貸出・返却・予約・レファレンス等） ・テーマ展示 ・広報紙の発行 ・相互貸借 ・選書 ・障がい者サービス（資料郵送）
図書館事業	【児童・生徒向け】 ・おはなし会 ・おはなしの部屋 ・ブックスタート ・新入学児童読書活動推進事業絵本プレゼント「絵本はともだち」 ・中学1年生読書活動推進事業文庫本プレゼント「大きな世界を手のひらに」 ・やってみよう 親子で新聞スクラップ ・夏休み工作チャレンジ ・子ども司書体験 ・親子で絵本袋をつくろう 【一般向け】 ・読書会 ・絵本とおはなしの会 ・図書館誕生祭・ちいさな秋の図書館まつり ・講演会 学校等との連携 ・学校専用図書「学校アウトリーチ」の貸出 ・ブックトーク「本の世界」 ・図書館見学の受け入れ（幼児施設、小学校） ・職場体験の受け入れ（中学校、高校） ・学校図書館との連携協力会議 ボランティアの育成 ・ボランティア等スキルアップ研修会

（令和4年度実績）

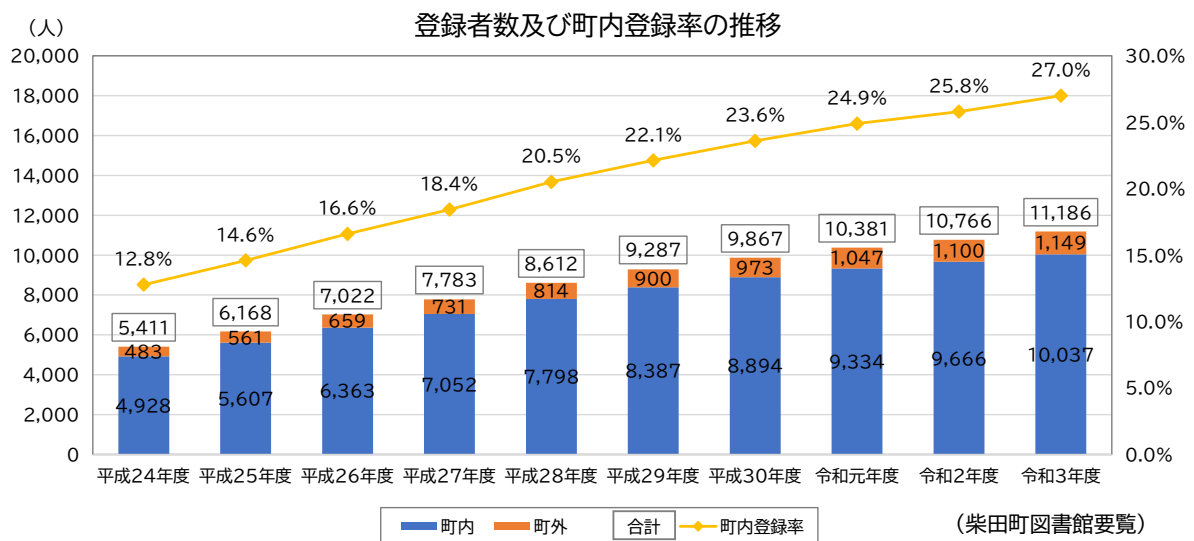
(4) 蔵書数

柴田町図書館の蔵書数は10年間で22,422冊増加し、令和3年度では63,036冊となっています。蔵書構成は一般書が約半数、児童書が約3割となっています。



(5) 登録者数及び町内登録率の推移

登録者数は10年間で5,775人増加し、令和3年度には11,186人となっています。町内登録率は平成24年度の12.8%から令和3年度には27.0%まで増加しています。



項目		人数	構成比
柴田町人口		37,135 人	—
登録者数 (個人)	町内	10,037 人	100.0%
	船岡地区	5,828 人	58.1%
	船迫地区	1,721 人	17.1%
	槻木地区	2,488 人	24.8%
	町外	1,149 人	—
	合 計	11,186 人	—

(令和4年度柴田町図書館要覧より)

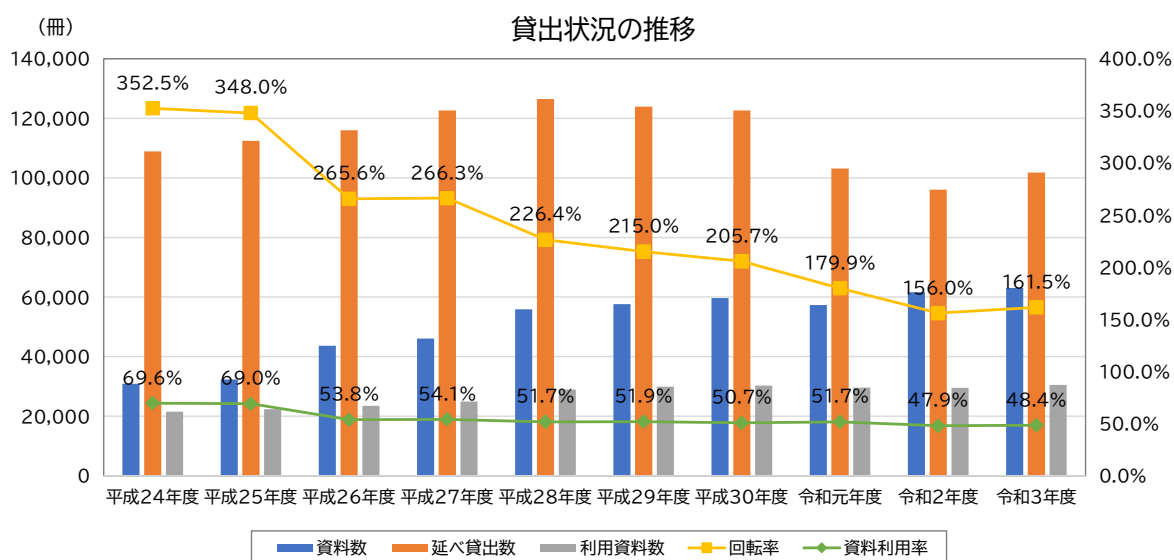
(6) 貸出冊数・貸出者数

貸出数は近年減少傾向にあり、とりわけコロナ禍では休館の影響もあって落ち込みましたが、令和3年度に入り復調傾向がみられます。

なお令和3年度の全館合わせた貸出冊数は103,198冊、貸出利用者数は21,358人で、町民1人当たりの貸出冊数は約4.8冊です。(令和4年度柴田町図書館要覧より)

予約件数はWEBからの予約が増加しており、マイページ等のインターネットを活用したサービスの周知効果が出ていると考えられます。

一方で、レファレンス件数は、コロナ禍では長時間の調査相談サービスを中止していたこともあり、令和4年度は平成30年度に比べ4割に減少しています。



(柴田町図書館要覧)

項目		平成28年度 (2016年度)	平成30年度 (2018年度)	令和2年度 (2020年度)	令和4年度 (2022年度)	
		柴田町図書館			柴田町図書館	槻木分室
予約件数	カウンター	3,366件	3,372件	3,229件	3,278件	571件
	館内 OPAC ※1	3,123件	946件	371件	552件	59件
	WEB		2,988件	4,737件		
レファレンス件数※2		194件	102件	45件	40件	—

(各年度実績)

※1 OPAC:蔵書検索用端末。平成28年度まで、館内 OPACとWEBの予約は合算して集計していた。※2 レファレンス:調査相談。

3 アンケート調査からみる意向

(1) 調査概要

現在の図書館の利用状況や新しく建てる図書館へのニーズ等について把握するため、また、「柴田町新図書館基本構想」策定に向けた基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

①調査方法

調査名	調査対象	配布・回収方法	実施時期
住民等アンケート	18歳以上の住民 1,000人 (無作為抽出)	郵送・WEB	令和5年6月～7月
	柴田町図書館利用者	WEB	令和5年6月～7月
中高生アンケート	柴田町の中学校・高校に通う生徒 715人	WEB	令和5年6月～7月

②回収状況

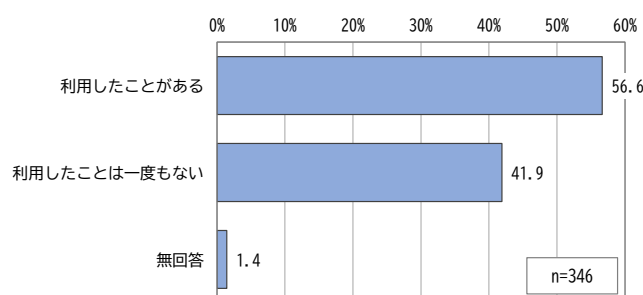
調査名	配布数	回収数	回収率
住民等アンケート	1,000票	郵送：193票 WEB：102票	29.5%
	—	図書館利用者WEB ：51票	—
	—	合計：346票	—
中高生アンケート	715票	218票	30.5%

(2) 調査結果

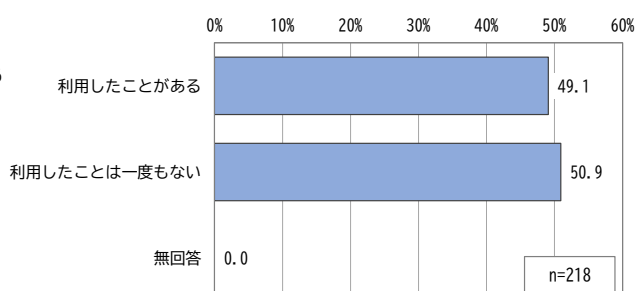
①利用状況

住民等、中高生ともに「利用したことがある人」が約半数であるが、利用者の利用頻度は、住民等に比べて中高生が少ない様子がうかがえる。

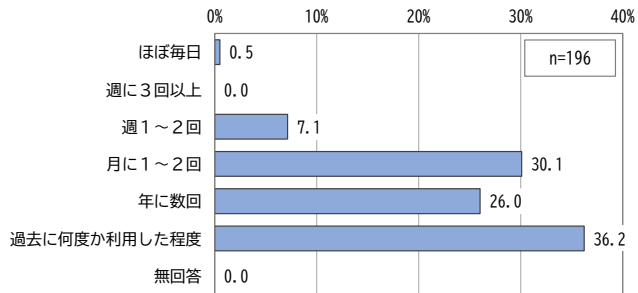
【住民等アンケート】



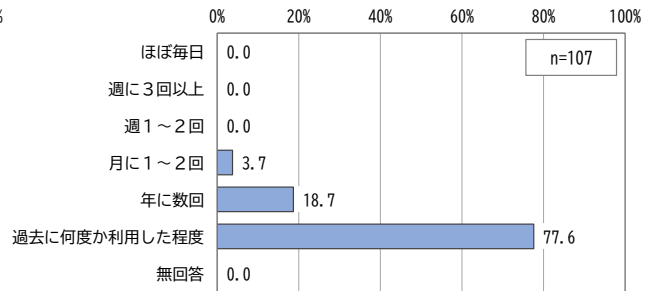
【中高生アンケート】



【住民等アンケート】



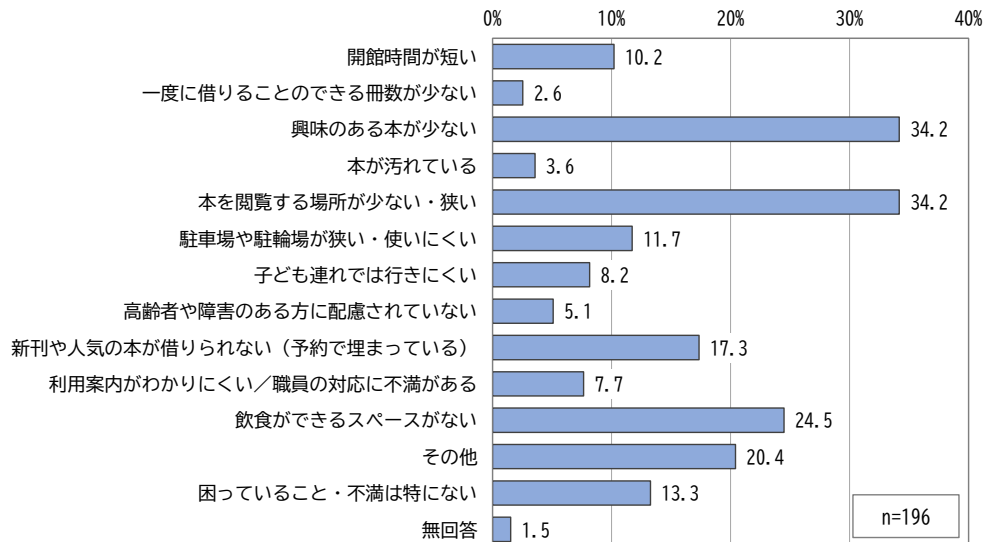
【中高生アンケート】



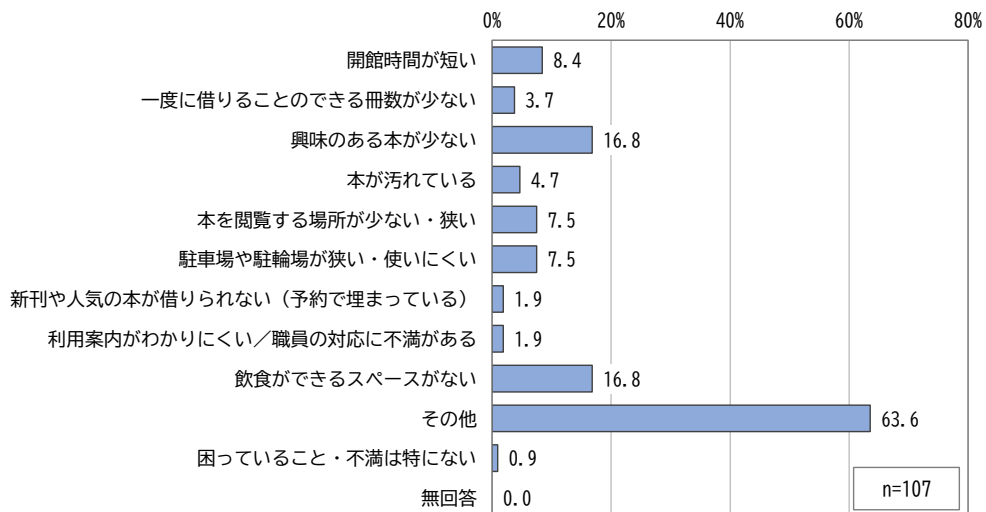
②柴田町図書館を利用する際に困っていること・不満に思うこと

住民等では「興味のある本が少ない」、「本を閲覧する場所が少ない・狭い」といった意見が多い。中高生では「その他」が最も多く『蔵書量が少ない』、『アクセスが悪い』等といった詳細な意見があがっている。

【住民等アンケート】



【中高生アンケート】



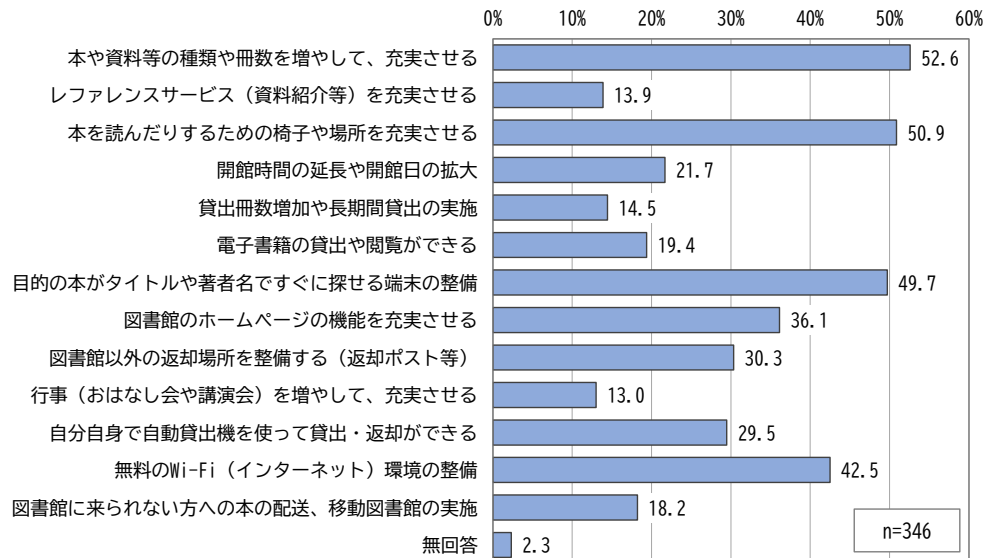
【“その他”の内容】

・蔵書量が少ない ・アクセスが悪い ・月曜日が開館していない ・2階のスペースが汚い 等

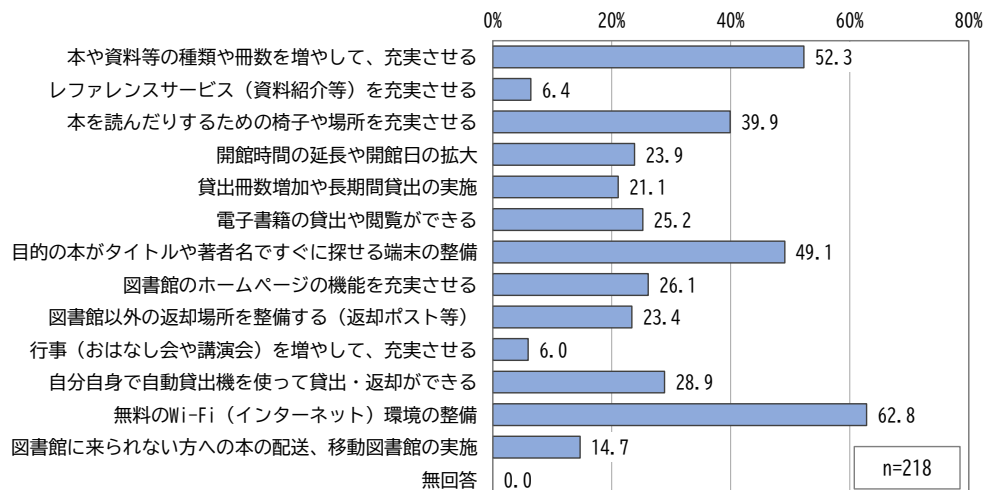
③新しい図書館にほしいサービス

住民等では「本や資料等の種類や冊数を増やして、充実させる」、中高生では「無料の Wi-Fi (インターネット) 環境の整備」が最も多い。

【住民等アンケート】

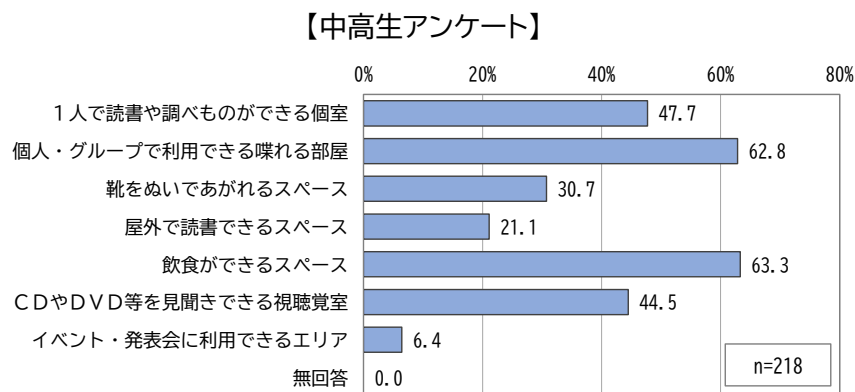
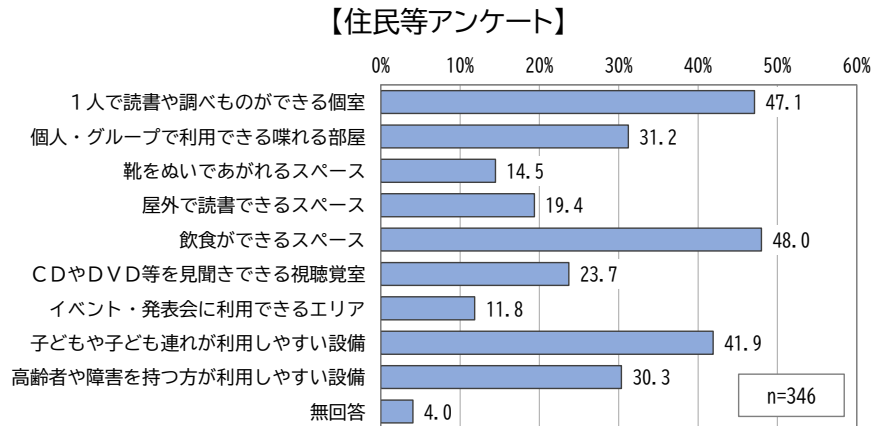


【中高生アンケート】



④新しい図書館に欲しい設備等

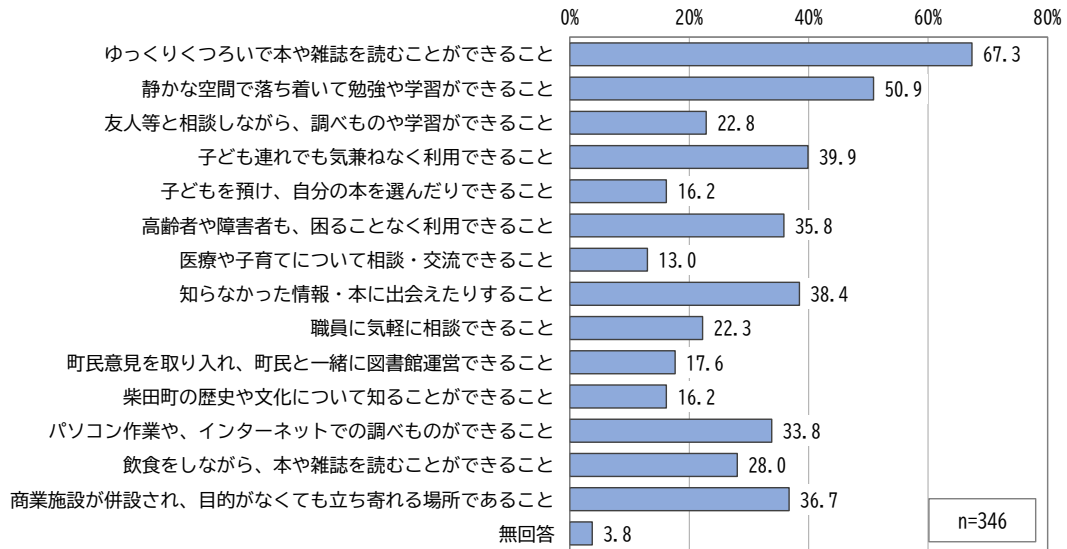
住民等、中高生ともに「飲食ができるスペース」が最も多く、次いで住民等では「1人で読書や調べものができる個室」、中高生では「個人・グループで利用できる喋れる部屋」が多くなっている。



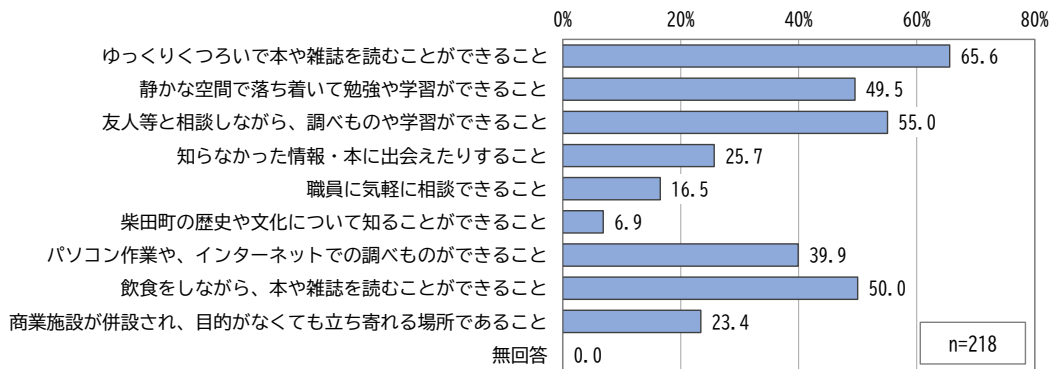
⑤新しい図書館で大事にしてほしいこと

住民等、中高生ともに「ゆっくりくつろいで本や雑誌を読むことができる図書館であること」、「静かな空間で落ち着いて勉強や学習ができる図書館であること」が多くなっている。中高生ではその他に、「友人等と相談しながら、調べ物や学習ができること」、「飲食をしながら、本や雑誌を読むことができること」も多い。

【住民等アンケート】



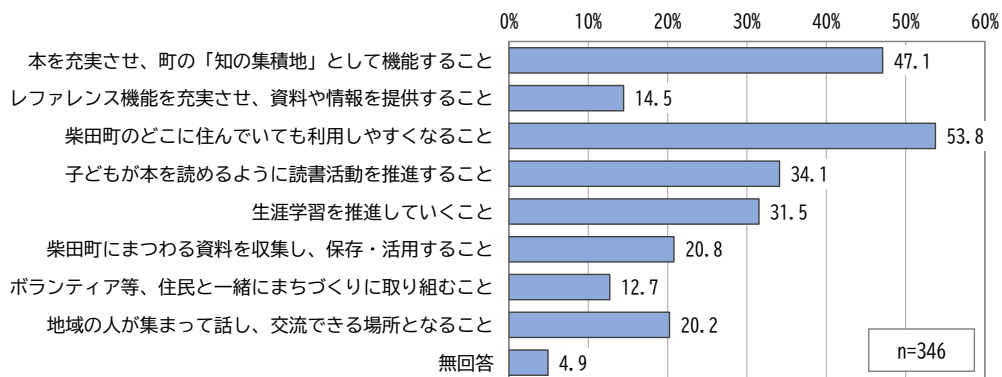
【中高生アンケート】



⑥新しい図書館で特に取り組んで欲しいこと

住民等では、「柴田町のどこに住んでいても利用しやすくなること」、「本の数を増やして充実させることで、柴田町の「知の集積地」として機能すること」が多くなっている。

【住民等アンケート】



4 柴田町図書館の課題と今後の方向性

各種データや市民ニーズ等からみる柴田町図書館の課題と、新図書館の方向性は次のとおりです。

(1) 基本的な図書館サービスの基本の充実

<柴田町図書館の課題>

- 住民等アンケートによると、図書館の利用者のうち月に1回以上利用しているリピーターは約4割で、半数以上が「年に数回」または「過去に何度か利用した程度」と回答していることから、利用頻度があまり高くない様子がうかがえます。
- アンケートによる新図書館へのニーズをみると、利用頻度の高い人ほど、蔵書数や貸出サービス等、図書館の基本となるサービスの充実に回答が多いほか、ワークショップでも、蔵書の充実や、新たな本と出会える機会の創出を求める声が多くあがっています。
- 一方、統計データによると、図書館サービスの中でも、貸出と合わせて重要な機能であるレファレンスの件数が、近年は一貫して減少傾向にあります。

新図書館の方向性

- (1) 町の「知の集積地」として機能するという図書館の基本となるサービスの充実に努めることで、本を通じた感動・発見等をより多くの住民が体験できるよう取り組みの推進を図る必要があります。
- (2) 正しい情報を取捨選択し、住民の知りたい、学びたい気持ちをサポートするレファレンスサービスは、情報過多な現代においてこそ重要性が増しているものと考えます。

(2) 図書館の利便性の向上

<柴田町図書館の課題>

- 住民等アンケートによると、利用頻度の低い人や利用したことがない人では、リピーターの方と比べて、どこに住んでいても利用しやすくなる環境へのニーズが高くなっています。また、利用したことがない人の図書館を利用したことの理由は、「忙しくて図書館に行く時間がないから／本を借りても返しに行くタイミングがないから」が最も多くなっています。
- 利用者の時間別や曜日別の貸出状況は、年代によってばらつきがみられます。来館手段は8割以上の方が自家用車となっており、ワークショップ等では新図書館に求める機能として駐車場の充実があげられています。

新図書館の方向性

- (1) 利用頻度の増加や利用者の裾野拡大のためには、ライフスタイルの多様化に合わせた利便性の向上が重要です。
- (2) 図書館から遠い地区の住民が、利用しやすいアクセス環境について考慮する必要があります。

(3) 子どもの読書活動のさらなる推進

<柴田町図書館の課題>

- 中高生アンケートによる図書館を利用する頻度では、約8割が「過去に何度か利用した程度」と回答しており、一般市民以上に中高生の図書館の利用頻度が低い結果となっています。一方で、学校図書館の利用頻度は、月に1回以上利用する人が約半数となり、子どもたちにとって身近な学校図書館が多く利用されている様子がうかがえます。
- 住民等アンケートでは、新図書館に求める機能として、授乳室、おむつ交換台等をはじめとする子どもや子供連れでも利用しやすい設備や環境を求める声が多くあがっているほか、蔵書については、読み物や実用書に次いで、児童書・絵本のニーズが高い結果となっています。
- その他、ワークショップ等においても、子どもの読書のきっかけづくりに関して、イベントの開催や本の紹介、読書ノートの配布等、多くのアイデアが出されています。

新図書館の方向性

- (1) 現在の図書館の利用状況を踏まえると、子どもの読書活動のさらなる推進のためには、身近な学校図書館と連携した取り組みの推進が重要といえます。
- (2) 子どもや子育て世代にとって、図書館がより身近で利用しやすい場所となるためには、乳幼児期～ヤングアダルト世代までの切れ目のないサービスの提供が必要です。

(4) 誰にでも利用しやすく、居心地の良い居場所としての環境づくり

<柴田町図書館の課題>

- アンケートによる新図書館に欲しい設備では、本や雑誌を読んだり、勉強や仕事等に使えるスペースのほか、特に中高生で話をしたり、飲食ができる等多様なスペース・機能の充実を求める声が多くなっています。飲食可能なスペースについては、ワークショップ等でも多く意見があがっており、ニーズの高さがうかがえます。
- また、「誰一人取り残さない」持続可能な社会を目指し、2015年9月に国連により全会一致で採択された持続可能な開発目標(SDGs)の推進や、2019年に成立した読書バリアフリー法などの社会的背景を踏まえ、障がいの有無や性別、年齢、国籍等を問わず、誰にでも利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した整備も重要です。

新図書館の方向性

- (1) 図書館の利用に障がいがある人も含めて、すべての人が利用しやすい環境の整備を図る~~とともに~~、必要があります。
- (2) 誰もが好きな~~用途~~使~~い~~方で、いつでも利用しやすい~~く~~、居心地の良~~い~~“居場所”としての機能の充実が必要とされています。

(5) 住民等との交流や連携、協働による活動を支援する拠点となる図書館づくり

<柴田町図書館の課題>

- 柴田町の「都市再生整備計画」によると、計画区域の整備にあたっては、“知の拠点”としての「新図書館」、町の歴史や文化が詰まった「しばたの郷土館」、桜の名所「船岡城址公園」が連携し、一体となった「賑わい・交流の拠点施設」の整備を図ることをめざしています。その中核施設として新図書館を位置付けています。
- ワークショップ等においても、新図書館における展示スペースや表現・講演等が可能なスペースの設置等、住民同士の交流を生むためのアイデアや、住民が図書館運営に主体的にかかわることができる仕組みづくりが必要といった協働による運営についての意見があがっています。

新図書館の方向性	(1) 新たな図書館は、柴田町の歴史や文化、地域の資源等に関する情報を蓄積・発信するだけでなく、住民や関係人口をつなぎ、人々の積極的な利用により賑わいを創出することで保存するだけでなく、あらゆる機会に圏内外に向けて情報発信する必要があります。 (2) 多くの人々が積極的に利用し、交流することで人と人をつなぎ、さらに柴田町と多様な関わりを持つ関係人口を増やし、交流や連携、協働によって、これからの柴田町を育む未来を拓く活動を支援する拠点としても機能することが望まれています。
----------	---

第3章 基本理念・基本方針

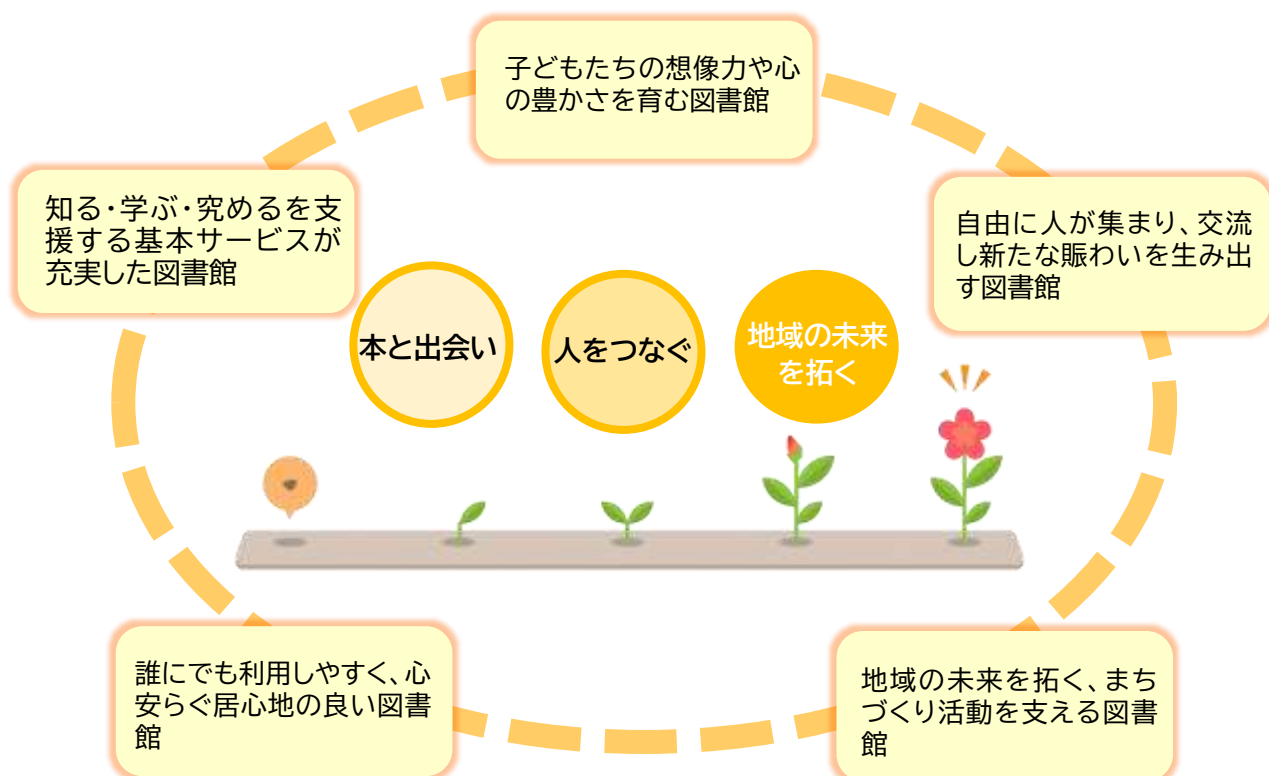
I 基本理念

柴田町図書館の現状と課題、今後の方向性を踏まえ、柴田町新図書館基本構想における基本理念を以下の通り設定します。

本と出会い、人をつなぎ、地域の未来を拓く図書館

図書館は、たくさんの本との出会いを通して、新たな学びや発見を得られる場所です。また、人々が集い、交流を盛んにするとともに、心安らぐ憩いの場所として、すべての人を受け入れる場所です。

柴田町図書館は、新たな学びや発見を通して、個人が成長していく場として、また、人と人をつなぎ、地域の新たな文化の創造や地域への誇りや愛着を育み、地域の未来を拓く図書館を目指します。



2 基本方針

柴田町新図書館の基本理念の実現に向けて、具体的な取り組みの推進を図るため、以下の5つの基本方針を設定します。

基本方針1 誰にでも利用しやすく、心安らぐ居心地の良い図書館

- (1) 誰もが自分の好きな使い方ですべて利用しやすい“居場所”としての機能の充実を図ります。
- (2) 図書館を普段利用しない人の来館のきっかけとなる魅力の創出に努めます。
- (3) 障がいの有無や性別、年齢、国籍等を問わず、誰にでも利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した整備を行います。

基本方針2 知る・学ぶ・究めるを支援する、基本サービスが充実した図書館

- (1) 蔵書数や貸出しサービスの充実など、図書館の基本となるサービスの充実に努めます。
- (2) 情報過多の社会の中で、レファレンス（調べもの相談）サービスの充実を通じて、正しい情報や必要な情報を提供し、住民の知りたい、学びたい気持ちをサポートします。
- (3) デジタル化社会に対応した図書館として、DXによる効率的、多様な情報の提供に努めます。

基本方針3 子どもたちの想像力や心の豊かさを育む図書館

- (1) 子どもたちにとって、身近な学校図書館と連携し、本を読む力と自ら学ぶ力を育てます。
- (2) 乳幼児期からヤングアダルト世代まで、切れ目のない読書活動や学習活動を支援します。
- (3) 子どもの読書のきっかけづくりとして、親子で来館しやすい環境づくりに努めます。

基本方針4 自由に人が集まり、交流し、新たな賑わいを生み出す図書館

- (1) 自由に人が集まり、出会い、交流する施設として、コミュニティづくりの場を提供します。
- (2) 町民だけでなく、町外から来た利用者とも交流・連携ができる場を提供します。
- (3) 周辺施設と連携し、賑わいや交流を創出する中核施設として公共の場づくりに努めます。

基本方針5 地域の未来を拓く、まちづくり活動を支える図書館

- (1) 地域の課題解決に向けた、地域活動や生涯学習活動などの、まちづくり活動を支援します。
- (2) 未来に「伝えたい」「残したい」「自慢したい」しばたの宝ものを大切に守り、伝えていく活動を支援します。
- (3) 住民の参加と協働により、魅力的な図書館づくりに努めます。

第4章 新図書館の建設予定地、規模、空間構成等について

I 新図書館建設予定地について

柴田町新図書館の建設予定地は、現状の図書館の北側の約 5,000 m²の土地を予定しています。周辺には、しばたの郷土館、船岡城址公園など、柴田町における観光、文化、交流の中心地となっています。

柴田町新図書館建設予定地



2 新図書館建設に向けた基本コンセプトについて

施設の整備にあたっては、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインのもと、誇りと愛着がもてる印象的な外観、明るく開放的な心安らぐ空間づくりを基本とします。

さらに、周辺の景観に溶け込み、しばたの郷土館との調和を図り、シンプルで省エネルギーに配慮した建物として建設します。

(1) 建物のイメージ

1 緑豊かな公園としばたの郷土館とも調和した地域のランドマークにふさわしいコンパクトで愛着の持てる建物とします。

2 多くの人を引き付ける機能美あふれた印象的なデザインを持つ外観とします。

(2) 館内の空間デザイン

1 明るく開放的な空間づくり
①ワンフロアの中で、視界が広がる、明るく開放的な室内 ②本との出会いを演出する、動線の設定と書架の配置 ③木のぬくもりが漂う、温かみがある内装
2 静かさと賑やかさが共存する空間づくり
①一般書と児童書の書架ゾーンを分け、カウンターから一望できる空間の設定 ②静かに落ち着いて本が読める個人スペースの確保 ③誰もが出入りし、会話が弾む交流スペースの確保
3 誰もが心地よい居場所となる空間づくり
①子どもや高齢者にも利用しやすいユニバーサルデザイン仕様の館内 ②視覚障害のある人が点字図書や録音図書を楽しめるスペースの確保 ③明るい日差しの中で、飲食しながらのんびりと本や雑誌が読める居場所の確保 ④親子でくつろげるスペースの設置
4 多様な学習活動やまちづくり活動を支援する空間づくり
①個人用閲覧席の設置など勉強や学習意欲を高める空間の確保 ②講演会やワークショップができる、多目的スペースの確保 ③まちづくり団体や図書ボランティアが自由に使えるスペースの確保
5 柴田町の歴史や魅力を学び、伝えるコーナーの確保
①郷土の歴史や文化を紹介し、情報発信する展示コーナーの設置 ②姉妹都市の北上市や歴史友好都市の北海道伊達市に関するコーナーの設置 ③さくらをはじめ、しばた100選を紹介するコーナーの設置

3 新図書館の規模について

(1) 目標となる蔵書冊数の設定について

基本理念・基本方針に掲げた活動を支えるためにも、資料の充実が必要です。蔵書冊数の目安としては、文部科学省生涯学習審議会社会教育分科審議会計画部会図書館専門委員会による『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準について(報告)』(平成12年12月8日)によると、柴田町の人口規模では、蔵書冊数は約17万冊(3万7千人の柴田町では、一人当たりの蔵書冊数は4.59冊)となっています。この数値は全国の市町村のうち各人口段階で貸し出し密度(住民一人当たりの貸出資料数)が上位10%の市町村の平均数値を基に算出したものであり、全国でも先進的な図書館の平均蔵書冊数となっています。

また、宮城県内の公共図書館における、一人当たりの蔵書冊数の平均は2.50冊となっています。

一方、柴田町の一人当たりの蔵書冊数は、令和4年度末現在1.67冊であり、現状宮城県の平均冊数にも届いていない現状であります。新図書館での蔵書冊数については、宮城県の一人当たりの平均冊数を達成する8万冊を目標にしますが、今後住民等の意見を踏まえ、基本計画において蔵書冊数や延床面積を決定し、全体像を示してまいります。

(2) 蔵書内訳の検討について

望ましい基準によると、新図書館の開架書庫と閉架書庫の構成割合は、おおむね6:4の割合となっています。また、開架図書における一般図書と児童書の割合については、6:4とし、児童書の中の絵本の割合は5割を想定しています。

蔵書内訳のイメージ

図書館全体		80,000冊
開架		50,000冊
	一般書	30,000冊
	児童書・絵本	20,000冊
閉架		30,000冊

資料構成比率

- ・開架:閉架=6:4
- ・一般書:児童書=6:4
- ・児童書:絵本=1:1

(3) 新図書館内のスペースの検討について

①開架スペース

開架スペースに設置する書架は、老若男女誰にでも使いやすい段数とします。書架の間隔は、人と車いすが余裕を持ってすれ違うことができるように設定します。閲覧席等としては、一般的な閲覧席の他に、新聞・雑誌コーナーや読み聞かせコーナー、調べ学習室等を見込んでいます。

②全体スペース

新図書館においては、開架スペースの他に、閉架書庫やエントランス、郷土コーナー、研修室等、さらに事務室や機械室などの管理部門などのスペースが必要となります。これらのスペースについては、今後、基本計画や基本設計の段階で必要となる機能を整理してまいります。エントランス

は、利用者同士の交流スペースとしても機能するが楽しめるようなスペースを確保します。研修室等は30人程度で利用できる大きさを想定しています。

しかし、近年の~~人件費や資材の~~価格の高騰のあおりを受け、建築費用の増加が懸念されることから、~~全体事業費と予算との兼ね合いから、~~実施設計を行う際には、~~建築費用も含め~~書架の数や間隔、延床面積について、~~縮小することも~~再検討せざるを得ないと考えています。

4 新図書館の空間構成等について

空間構成を検討した結果、新図書館においては、静かに読書をしたい方や勉強をしたい方、子どもを連れた親、交流するスペースを望む方や居心地を求める方と多様なニーズがあり、従来図書館が持っている開架等の図書スペースと交流や賑わいを創り出す活動的なスペースをうまく融合させる必要があります。そのため、ゾーニングに関しては、人の動きや音について、静のスペースと動のスペースにフロアを分けながら、それぞれのスペースはつながりのあるものとします。

また、プレイステーションワークショップでも天井が高く、居心地の良い空間づくりについての意見があったため、壁や仕切りなど~~により~~で、窮屈に感じることを少ない開放的な~~デザインについて~~館内となるよう考慮する必要があります。

さらに、バリアフリーの観点から、動線の良い間取り~~について~~考慮や、段差をなくした空間~~と~~する必要があるため、~~建物は1階建ての建物で建設することを検討を~~しています。

5 新図書館の機能等について

開架スペースには、アンケートよりグループでの利用ができる図書館の要望が多かったことから、複数人で相談しながら使用し、調べ学習ができるスペース~~を~~は設けたいと考えています。

柴田町新図書館建設検討委員会からは、図書館に関わる読み聞かせボランティアや朗読ボランティアが活動しやすいような、環境の整備について検討するよう意見をいただいています。

また、児童用トイレ、授乳室、おむつ交換コーナーは児童スペースのすぐ近くに設置して、子ども連れの利用者の利便性の向上を図ります。

さらに、障がいのある方も楽しく図書館を利用できるスペースを確保します。

想定している主な機能等

名称	主な機能
開架スペース	一般図書、新聞・雑誌、参考図書、郷土資料、点字資料、閲覧席（ フタ付きの飲物を持ち込むことを想定 ）、調べ学習スペース（複数人で使用できるもの）、学習スペース、総合カウンター（貸出、レファレンス等）、絵本、児童書、絵本読み聞かせコーナー、閲覧席
書庫	閉架書庫
研修室等	研修室（30人程度）、ボランティア兼対面朗読室
その他の施設等	トイレ、児童用トイレ、授乳室、おむつ交換コーナー、公衆無線 LAN、屋外読書コーナー、エントランス（ 飲食ができる交流スペースを含む ）など
管理部門	事務室、休憩室、更衣室、機械室など

6 新図書館建設スケジュールについて

- (1) ~~今後は、~~令和6年度10月頃までに基本計画・基本設計を策定し、令和6年11月頃から実施設計に入ります。~~その後、~~
- (2) 令和7年の後半頃までに建設工事に着手し、令和9年度中に開館する予定としております。
- (3) 基本計画、基本設計及び実施設計については、令和6年3月までにプロポーザル方式により優先交渉権者を決定し、新図書館建設に係る民間のノウハウやアイデア、~~経験則~~ノウハウを活用するとともに、ワークショップや住民説明会等を開催し、多くの住民の意見を踏まえながら策定します。

今後のスケジュールの予定

項目	R5	R6	R7	R8	R9
基本構想					
基本計画・ 基本設計					
実施設計					
建設工事					
開館準備					
開館					令和10年4月 予定

I 新図書館建設に向けた検討の経緯

(1) 柴田町新図書館建設検討委員会の開催状況

柴田町の新図書館の整備に関して建設に向けて検討するを行うため、柴田町新図書館建設検討委員会を設置し、議論を重ねてきました。

【令和5年度】

開催日	会議等	議事議事内容
6月30日(金)	第1回柴田町新図書館建設検討委員会	○報告事項 ・都市再生整備計画の概要について ・新図書館建設のスケジュール及び検討内容について ・町民アンケートの内容と進捗状況 ・柴田町図書館の現状と課題 ○協議事項 ・基本構想骨子案に組み込むべき事項について
8月25日(金)	第2回柴田町新図書館建設検討委員会	○報告事項 ・新図書館整備に向けたアンケート調査結果報告 ○協議事項 ・コンセプト、新図書館に求められる機能について
10月27日(金)	第3回柴田町新図書館建設検討委員会	○協議事項 ・基本構想骨子案について ・新図書館の蔵書数及び延床面積について
12月22日(金)	第4回柴田町新図書館建設検討委員会	開催後に、追記します。
2月16日(金)	第5回柴田町新図書館建設検討委員会	

○柴田町新図書館建設検討委員会委員名簿

(順不同・敬称略)

No.	役 職 等	委 員 名	備 考
1	学識経験者（宮城大学）	平岡 善浩	●委員長
2	社会教育委員	大槻 浩子	●副委員長
3	学校教育関係（学校長）	谷内 幸絵	
4	図書館ボランティア	男澤 勝由	
5	子ども読書活動推進委員会副議長	金城 幸子	
6	住民代表（公募）	平間 美咲	
7	住民代表（公募）	木村 美智子	
8	宮城県図書館職員	田中 亮	
9	まちづくり支援団体	佐藤 祥多	
10	仙南芸術文化センター館長	玉渕 博之	

(2) 賑わい交流プレイスデザインワークショップの開催状況

- ①都市再生整備計画の推進にあたり、町では、船岡城址公園・しばたの郷土館周辺を「賑わい交流拠点」と位置付け、エリアの再整備に必要となる賑わいのデザインを考えるためのワークショップを開催しています。
- ②このワークショップは、公立大学法人 宮城大学と町の「地域活性化協創プロジェクト」として、大学の支援のもと、一般参加者の方々や学生たちが一緒になって、賑わいの場にふさわしいデザインを話し合っています。

【令和4年度】

開催日	会議等	議題等
10月28日(金)	第1回プレイス・デザイン・ワークショップ	・「賑わい交流の拠点」の一带のビジョン・コンセプト・デザインを考える
11月18日(金)	第2回プレイス・デザイン・ワークショップ	
12月23日(金)	第3回プレイス・デザイン・ワークショップ	

【令和5年度】

開催日	会議等	議題等
5月12日(金)	第0回プレイス・デザイン・ワークショップ	・令和4年度のまとめ ・現在の検討状況
7月21日(金)	第1回プレイス・デザイン・ワークショップ	・船岡城址公園(みんなの広場)、町道船岡西7号線ほかのビジョンデザインを考える
8月23日(水)	第2回プレイス・デザイン・ワークショップ	
10月25日(水)	第3回プレイス・デザイン・ワークショップ	
11月22日(水)	第4回プレイス・デザイン・ワークショップ	しばたの郷土館の再整備を考える
12月20日(水)	第5回プレイス・デザイン・ワークショップ	

開催後に、追記します。

(3) 職員ワーキンググループによる検討状況

【令和4年度】

開催日	会議等	議題等
10月26日(水)	第1回プレイス・デザイン・ワーキンググループ	・都市再生整備計画の概要
1月31日(火)	第2回プレイス・デザイン・ワーキンググループ	・検討状況の確認
2月21日(火)	第3回プレイス・デザイン・ワーキンググループ	・新図書館コンセプトの検討
3月15日(水)	第4回プレイス・デザイン・ワーキンググループ	

【令和5年度】

開催日	会議等	議題等
9月28日(木)	第1回プレイス・デザイン・ワーキンググループ	・しばたの郷土館、新図書館の検討状況の確認

(4) 柴田町の新図書館整備に向けたアンケート調査

調査名	対象	回収結果
住民等アンケート	18歳以上の住民 1,000人 (無作為抽出)(郵送・WEB)	郵送:193票/WEB:102票 【回収率:29.5%】
	柴田町図書館利用者(WEB)	51票
中高生アンケート	柴田町の中学校・高校に通う生徒 715人	218票 【回収率:30.5%】